

トピックス

「石巻専修大学人間学部 横江ゼミ『石巻防災カルタ』」の開発と活用

横江 信一

1. 開発の経緯

私の「学級経営研究室」には、小学校教師を目指す4年次の学生6名が所属している。その中の学生Kさんが卒業研究で“小学校の教員になったならば学級の中で防災力を育てたい”ということから、子どもと教師が自然に話し合える教材を目指し、対話を生む“かるた形式”を提案した。

東日本大震災当時、4年次の学生は小学校1年生であり、被災経験をしている。学生Kさんが通っていた福島県郡山市の小学校には、福島県の浜通りから東京電力福島第一原発事故に伴い多数の避難者が移ってきた。このような中で転校生と学級生活を過ごしてきたことから、学級づくりや防災に対する意識が一層強くなったようだ。

東日本大震災から15年を迎え、甚大な被害から復興に至る軌跡を知らない世代が多くなった今日において、特に小学生に対する自然災害への予防、災害が起こった際の対応についての防災教育は、今後の学校の危機管理として求められる。

そこで、東日本大震災を風化させることなく、被災経験がない現在の小学生の防災意識を高めるために、学級経営研究室の学生6名によって「石巻防災カルタ」を開発することになった。

2. 目的、活用方法

(1)「石巻防災カルタ」開発の目的

「石巻防災カルタ」を防災教育の一環として作成しどのように活用するかが重要である。そこで「石巻防災カルタ」開発の目的については次のように捉えた。

「石巻防災カルタ」の活用を通して、防災・減災に対する継続した防災意識と防災行動ができる「学級防災力」の向上を図るとともに、防災の知識をもとに迅速な防災行動ができる学級担任を目指す。

学級担任に求められる防災教育は、自分の命は自分で守る自助に加え、周りの方々と助け合う共助についても理解しなければならないことであり、小学校教員を目指している本学学生の防災意識向上につなげられることから「石巻防災カルタ」の開発と活用について実現させたいと考えた。

「石巻防災カルタ」の開発に当たって、読み札の内容を十分に検討しなければならない。震災を知らない小学生にイメージできるようにすることが大切であり、学生にとって苦勞したところである。しかし、学生6名は小学生の時に経験したことを思い出しながら取り組むことになった。また、大学で防災を学んできたこともあり、読み札の内容について検討を重ねてきた。

東日本大震災でも分かったことは、ハザードマップで避難場所に指定されていても津波が襲来して命が奪われている。まさに、命を守るための常々の防災意識は、日常の生活場面が最善ではなく、常に想定されていないことも起りうることであり、読み札にも生かさなければならない。

(2)「石巻防災カルタ」活用で育つ学級防災力

学級の中で、子ども一人一人の防災・減災に対する対話から課題を見つけ、危険回避に向けた予知力を働かせて命を守るために迅速に行動できる力を「学級防災力」と捉えた。

「石巻防災カルタ」は「学級防災力」の3つの